

第5回みんなで考える家庭ごみ減量会議

意見提出シート まとめ

1. みんなで考える家庭ごみ減量会議に参加して、印象に残った議論や意見、ご自身の体験（心に残ったこと、気づいたこと、変化したことなど）がございましたら、お書きください。

- 参加者皆さん、本当に真剣に取り組んでおられる。いろいろな方の意見が聞けて、楽しかったです。
- 2回目の会議で少数チームでの話し合いが印象に残った。それぞれの方のおかれた環境から出る意見が興味深かった。
- 生ごみの水切りをさらにするようになった。
- 職場で「紙ごみ→可燃ごみ」ではなく資源ごみへ出すよう、提案しようと思った。
- 以前からしていた、道端や側溝などに落ちているごみを、これからも拾おうと思った。
- ごみ減量の必要性について、考えの温度差があるメンバーの集まりであったと思います。
- 必要性について、ある程度は認識していたつもりですが、課題としてとか、将来、未来への負担など、考えが及んでいなかったことに気づきました。
- 生ごみの水切りをしていたが、友人が行っていたコーヒーかすを乾かす事を後にやり始めた。
- 軟質プラスチックを出していたが、細かく行っていることで家族も意識してくれるようになった。
- 減量会議前に資料を送付して下さり、目を通す事ができ、疑問点等をあらかじめ知ることができ良かった。
- 軟質プラスチックを出す様になったら、燃えるごみが大きい袋から小さい袋に減った。
- コスト構造を変える事で、ごみ処理(乾燥)機を地域に入れる事ができるのではないかと思う。
- 普段当たり前のようにごみを出していましたが、今後のために、子どもたちの未来のためにも、ごみ問題について真剣に考えていかなければならないと改めて思いました。
- ごみ処理場、最終処分場の見学で意識が更に変わった。責任を持って、分別をしなければと。
- 資源を無駄にしないように。
- 参加者に生ごみ問題、そして、対処方法を理解していただいた。
- 軽い気持ちから参加した事が大きな勉強になりました。楽しく参加出来、嬉しかったです。遠路お出で下さり、ご指導ありがとうございました。
- 小さい意識を持つことだけでも明らかにごみの量が減った

2. 「みんなで考える家庭ごみ減量会議」の議論や提言を受けて、提言の内容を町民に周知したり、具体的に進めたりするために必要なことはなんでしょうか。ご自由にお書きください。

- 自分事として考える。
- 家庭は最小の国家。家庭の代表が地域を作る。地域の代表が国を作る。国の代表が世界を作る。
- 家族が家庭環境を作る。家庭環境が変われば、国が変わる。家庭環境は自分が作る。

- やはり話し合う場を設けるのが一番必要なのかなと思った。その上で小学生にも伝えられるツアーの計画などもすべきだと思った。
- 面白い、楽しい、読みたく・見たく・聞きたくなるような絵、ギャグ、イラスト、まんが、イメージソング、まんざい、番組、出前授業、防災無線の言葉など！
- 根気よく伝えていくことしかないのかな?と思います。
- ごみ減量と町づくりが一体化になれば、今まで感心がなかった方々にも、ちょっとは考えてもらえるから。
- 軟質プラの収集日、場所を決めて欲しい。
- 広報誌やテレビ、SNSなどはもちろんのこと、住民に取組みをしている姿を見せることが必要だと思います。
- 生ごみを出さないための「琴浦町家庭用生ごみ処理機購入費補助金交付要綱」を再度、発行すること。また、助成金を10万円にすること。約6年で全戸配布可能!6年以降は、行政予算削減可能となる。→大きな効果実現!!
- ごみに関心を持ってもらう為の広報活動。各地区での話し合いの機会を得る。
- 目標値を決める、それに対して、コミットすることだと思います。

3. その他ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。

- 軟質プラスチック。収集するのに費用が掛かる。家庭ごみに入れると焼却すること、燃料費が少なくなる。どれだけの費用の差が出るのか?その時のCO2の排出量は?
- イメージソング(ごみキャラクターなど)、町民に募集してもよいかもしれませんね。
- 中学生の授業に出るという意見、良いと思います。
- 会議が終わってから次回の会議までに書類(資料)をまとめて下さった事で、より積極的にとらえる事ができた様に思います。
- 提言書も読み手が、簡単に読みたいのか、隅々まで読みたいのかによって読めそうな所がとても良かった。
- 安くて便利な物が大量に消費され、それがごみになって、私達の税金から処理されている。社会の責任として、作る時点で業者に処理まで責任を負わせるシステム作りを望む。